

カブ（周年栽培）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作 型												
春まき (トンネル栽培)	○BsUBe○ 											
夏まき	Bs○Be○ 											
秋まき	○○ 											
冬まき (マルチ栽培)	U○ 											
主な作業	播種 ベタ がけ	換気	トンネル 除去	収穫								

作物名 カブ アブラナ科

原産地 アフガニスタン、ヨーロッパ西部、南部

学 名 Brassica campestris L.

作 型 春まき 夏まき 秋まき 冬まき

ので、抽苔が遅く、肥大の早い品種を使う必要がある。

「白鷹」「CR白涼」

技術体系

1 作型の特徴

春まき 低温期を経過するので、抽だいが遅く、肥大の早い品種を使う必要がある。
「CR白涼」「白鷹」

夏まき 小カブは元来低温性の野菜で夏期は生育が劣る。したがって、高温対策が重要で寒冷紗被覆等の対策が必要である。
「CR白根」

秋まき 小カブの生育に最も適した作型であるが、台風シーズンと重なるので風・雨害の対策が必要である。
「CR白根」「CR白涼」「白鷹」

冬まき 低温期の栽培であるので秋まきに比べて多肥とする。また、低温期を経過する

2 適応地域

全域

3 栽培条件

(1) 温度

冷涼な気候を好み生育適温は15～20℃である。種子の発芽は最低温度4～8℃、最適温度15～20℃、40℃を越えると著しく抑制される。

(2) 光

休眠中の種子は好光性で同じアブラナ科のダイコン種子とは光に対する反応が異なる。休眠が終わると光の必要性はなくなり、明暗のいずれの条件でもよく発芽する。

(3) 土壌条件

土壌酸度の適応範囲はpH5.2～6.8である。

土壌に対する適応性の幅は広いが、排水が良く、適度に湿気のある砂質～粘質壤土が適する。一般に、水分の豊富なきにカブの根は丸形となり、水分が少ないと根は細長くなる。

4 経営装備

(1) ハウス・トンネル

5 経営目標

(1) 収量 3.2 t / 10a

(2) 投下労働時間 260時間 / 10a

(3) 所得率 45%

(4) 経営規模 40 a

(家族労働力2人の場合)

施肥量

kg/10a

作 型	N	P O	K O
春まき	1 6	3 3	1 3
夏まき	9	1 6	8
秋まき	6 ~ 1 3	1 8 ~ 3 3	1 2 ~ 1 4
冬まき	1 4	3 0	1 4

4 播種

播種機（1粒まき）やシーダーテープを利用し、間引きをする場合、株間6 cm、無間引きで13 ~ 15 cm、条間14 ~ 16 cmで播種する。

5 間引き

本葉2.5 ~ 3.5枚になったら株間12 ~ 15 cmになるように間引きを行う。

6 収穫

収穫は播種後30日（夏秋）~60日（秋冬）で根茎5 cm程度になったころから開始する。

土壤水分の急激な変化により裂根するので注意する。

——— 栽 培 技 術 ———

1 品種と特性

「白鷹」

極晩抽性で裂根、変形、す入りが少ない。草姿は立性で葉色濃い。形は腰高で肉厚である。

「CR白根」

根こぶ病抵抗性で耐暑性が強く、夏の高温下での球の肥大性がよい。草姿は立性で葉色はやや濃く、葉軸は折れにくく、高温下でもす入りが少なく、変形、裂根が少ない。また、低温下での肥大性も良い。形は腰高で肉厚である。

「CR白涼」

根こぶ病抵抗性で晩抽性である。裂根、変形、す入りが少ない。草姿は立性、葉色は濃くて徒長しにくく葉軸は強く折れにくい。低温下でも葉伸び玉の肥大が良い。形は腰高で肉厚である。

2 本圃準備

日当たりが良く、通気性があり、しかも排水の良い肥沃な場所を選ぶ。土が締まると根の肥大が悪いので十分に耕起・砕土する。

3 施肥

播種5 ~ 7日前までに肥料を全面散布し、耕起しておく。全量を基肥として施用する。